日本スポーツ用品協同組合連合会 会報

2012.4.20

No.60

JSERA
Japan Sporting Equipments Retailers Association

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
東京都台東区浅草橋5-8-6　東京スポーツ会館 301号室
〒111-0053
☎ 03-5829-6490　FAX 03-5829-6491
ホームページ　http://www.jsera.jp/
E-mail　jsera@jsera.jp

〈2011／8～2012／7のスローガン〉
がんばろう東北! 復興に向けて1500の絆

心地よい空間

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会
理事長　重森　仁

去る2月1日、2日に開催した全国理事長会議、関連会議において、活発な討論をしていただき、ありがとうございました。その熱き思いを大切にし、ベクトルを一つにして、震災復興に向け、精一杯努力したいものです。

さて、その全国理事長会議を終え、帰路についた時、陽は西に傾いていました。大阪南港の寒さは、ふるさとは降雪かとの予感を抱かせた。案の定、京都あたりから雪がちらついてきた。地元、滋賀県東近江市に近づくにつれ、降りは激しく、積雪も増してきた。店に戻ったときには、30cmほどの積雪になっていた。午前10時頃から降り出した雪は、一気に積もり、数時間でこんな状態になったという。店前は、除雪されていたが、歩道は圧雪状態で、道往く人は滑らないよう慎重な足取りだった。翌朝6時過ぎに起床し、駐車場と歩道の除雪に取りかかった。南部の雪には珍しく水分の少ない軽い雪で、それほどつらい作業ではなかった。隣の楽器店の主人は私より早く仕上げた。私は2時間ほど費やして終えた。8時過ぎ、すっかりきれいになった歩道を見て、少し満足げになった。その後、いつもの喫茶店に車で向かった。ノロノロ運転で、止まるたびにあたりを見渡す余裕があった。歩道に不思議な光景をみた。歩道は所々除雪されていないところがあり、まるで虎刈りのようであった。そして、除雪されていないところは、全国チエーンの店だったり、大型店だったり、日本を代表する企業の横であった。隣の歩道は除雪されてなくても、自らの駐車場は対象的にアスファルトが見えていた。

2月18日も大雪だった。同じような行動をした私の目に飛び込んできたものは同じ光景だった。除雪に精を出す地域密着店、雪が消える頃には、店が消えるかもしれない危機感が漂う。なのに、店横の歩道すら除雪しないチエーン店が蔓延る現実に、理不尽さを感じつつ、行き付けの喫茶店に向かった。

年配の夫婦が経営するコーヒーの美味しい喫茶店である。深入りのブラックコーヒーがお気に入りである。幅広い年齢層に支持されている。昨秋、近くに人気の大型チエーン店が出店するとの情報が入った。この夫婦は心配した。24年続けてきた店をい

よいよ閉める時期がきたと。心配は、杞憂に終わった。このチエーン店がオープンしても、全く、客は減らなかったという。うらやましい限りである。

階段を上がり、店に入った。ボックス6席とカウンター10席ほどあるが、私がいつも座る場所は、かろうじて空いていた。除雪で空腹だったので、モーニングセットを頼んだ。まず、味噌汁が出てくる、そして、トーストとサラダ、目玉焼きが大皿で姿を現す。お腹が満たされた後、芳醇な香りの珈琲をすすりながら、30分ほどパソコンをたたいて、カウンターに¥500玉を置き、営業に出かけた。私が起った席には、次に、パチンコ店の開店待ちらしい客が座った。午前中と午後3時頃は満席のことが多いという。奥さんとの料理話に、花を咲かせる婦人方、ギャンブルの話に興じるチョイ悪親父、夜勤明けの若い労働者、それぞれに至福の時間を過ごして、次へと向かって行く。年配夫婦と客の会話が生み出す空間は、それぞれに心地よく、毎日足を向かわせる。

金曜日は、定休日である。浮気心で、近くにできたコーヒーのチエーン店へ出向いた。若いお嬢さんが出迎えてくれ、訓練された接客で、気持ちよく時を過ごした。席も広く、静かで、パソコンを打つにはもってこいである。トースト、ゆで卵そして珈琲で¥380であった。

我々、地域密着店にとっては、丁寧な接客はもちろんのこと、それを越えて、先の年配夫婦の店のように、心地よい空間を作り出すことが理想ではなかろうか。周りになにが来ようとも、びくともしない空間力に今日も引き寄せられるわたしであった。

何日か経って、春めいてきたある日、福井県組合の理事長竹原さんから、達筆の筆文字と共に、1枚の決議文がFAXされてきた。文面を見てハットした。私が考えていたことが、見事に文章化されていた。オープンカウンターと称される県の入札制度で、利益はなくなり、経費すら出なくなり、これでは、廃業もやむなし。全国の仲間と手を組み、対応策を考えたい。JSERAは先導的な役割を果すべきとの内容であった。私は、「物販にも最低価格を設けるべき」との持論を持っているが、そのことも書かれていた。我々の所へくる入札といえば、毎年同じカタログ商品が多い。100%自由なもとで入札が行われたら、去年、落札価格が¥1,000だった物は、今年は¥999以下である。来年は¥998以下であろう。当たり前のことである。いずれ商売でなくなる。小規模零細企業にとってあり地獄である。

不穏当かも知れないが、「いじめ」といっても過言ではない。自由、公平な制度というが、「価格のみ競争」の果てである。価格決定権は我々小売にあるが、落札しても、利益が出ない。それどころか経費すら出ない。怪物価格に抑えこまれている制度が闊歩している社会を、私は公正とは思えない。50周年を越えた福井からの一撃は眠りかけていた私の闘争心に火をつけたかも知れない。物言わぬまま、行政の制度を受け入れていたら、とんでもないことになる。たとえば、物販にも最低価格を設けるなど改善策を働きかける行動も視野に入れたい。心地よい空間とは対照的な堅い壁に閉ざされた暗い空間かもしれないが。

先の喫茶店の名は「ロンド」。娘さんが名づけたと言う。その名の通り地域の人々に愛され続け、ずっと輝くことだろう。

平成24年度　第19回全国理事長会議議事録

日時　平成24年2月1日(水)　13：30～16：50
場所　ホテルコスモスクエア国際交流センター
　　研修棟2階　「211」

出席者数：	理事長本人出席	41	名
	理事長代理出席	5	名
	顧　問	2	名
	オブザーバー出席	9	名
	理事・監事出席	4	名
	合計	61	名出席

理事長会議出席者

顧　問：辻本　昌孝(愛知)　小関　和夫(山形)
JSERA：蓮田　茂樹(石川)　矢野幸太郎(兵庫)
　　水島　隆司(大阪)　笹渕　信嘉(福岡)
理事長：村住　俊幸(北海道)　福士　大二(青森)
　　佐藤　佳明(岩手)　松村　善行(宮城)
　　五嶋　一夫(秋田)　渡部　政雄(山形)
　　桑原　勇健(福島)　笹谷　　忠(茨城)
　　宍戸　幸市(栃木)　関口　孝夫(埼玉)
　　鈴木　敏郎(千葉)　関水　正章(神奈川)
　　伊藤　　章(新潟)　大工原章介(長野)
　　木村　達郎(富山)　甲　　秋水(石川)
　　竹原　和彦(福井)　碓井　善治(静岡)
　　土赤　光宏(愛知)　角前　博道(三重)
　　澤田　基朗(岐阜)　重森　　仁(滋賀)
　　安井　幸夫(京都)　岸田　昌雄(大阪)
　　讃岐　和子(兵庫)　有家　輝明(和歌山)
　　尾坂　眞人(鳥取)　伊藤　禮嗣(島根)
　　山下日出夫(岡山)　渡邉　健介(広島)
　　大林　哲夫(山口)　篠原　正知(香川)
　　笹倉　泰治(徳島)　石田　　治(愛媛)
　　美馬　義一(高知)　武宮　兼敏(福岡)
　　中島　紘一(佐賀)　田原春　勇(熊本)
　　岩満　一臣(宮崎)　丸山　　修(鹿児島)
　　大嶺　　偕(沖縄)
代理出席：原田　和美(群馬)　佐藤昌一郎(東京)
　　金井　啓次(奈良)　吉井　　健(長崎)
　　伊藤　伸之(大分)
オブザーバー出席：
　　八森　辰雄(岩手)　五十嵐哲雄(宮城)
　　坂下　英雄(茨城)　川崎　　昇(千葉)
　　石田　　博(新潟)　堀　　英男(静岡)
　　清水　誠一(京都)　宗田　千耕(京都)
　　平本　寛之(島根)

＜開会＞　　進　行　：蓮田専務理事

＜理事長挨拶＞　　重森理事長

＜委員会活動方針＞

1. 活性化委員会　　関口副理事長

・全国大会のお礼。
・復興支援Tシャツ・タオルセットの注文は現在約200セットの受注状況。全店協力して頂けると約900万円の支援金になるのでたくさんの注文をお願いしたい。
・スポーツ安全講習会は一回りした。
・体育の日にボールを贈ろう事業は今年度は例年通りにする予定。

1. 共生委員会　　武宮副理事長

・ネットの価格破壊について対応して行きたい。

1. 広報委員会　　角前副理事長

・会員名簿を新たに作成した。
・リポートの原稿の協力を願いたい。

1. 事業委員会　　関水副理事長

・パウダー事業を関水副理事長、ショッピングバッグ販売促進を大林理事が担当し利益に貢献できるようにしている。
・スポーツ安全メガネの販売を開始した。メガネをかけた子供たちにも安全にスポーツが出来る商品。
・三大大会特別委員会を新たに発足し、蓮田専務理事・関水副理事長・水島理事・笹渕理事が担当。石川で総体、東京で全中の伝達会議を開催した。

1. 会計　　矢野理事

・totoの販売は厳しい状況。
・PL保険の見直しに向け土赤理事が調査中。
・復興支援に力を入れ約200万円と復興支援商品の支援金を復興支援金にする予定。

1. 総務委員会　　蓮田専務理事

・東日本大震災の全般的な支援方法を考案。
・会員名簿を広報委員会と共に作成。
・全国理事長会議の対応。

全国理事長会議

1. 三大大会特別委員会　　蓮田専務理事

・全中(東京)･総体(石川)の伝達会議を開催。国体（岐阜）は順調。

＜新理事長紹介＞

松村　善行　理事長（宮城県）
石坂　　元　理事長（群馬県）
甲　　秋水　理事長（石川県）
碓井　善治　理事長（静岡県）
讃岐　和子　理事長（兵庫県）

＜各ブロック報告＞

1. 北海道・東北ブロック　　松村会長

・震災支援のお礼。
・総体の売上が最高。
・全国大会(北海道)に向けて昨日会議を開催。
・震災後の状況は支援して頂いたのはとても有難かったが、支援バブルとなり物品があふれ地元の小売店では物が売れず死活問題になっている。風評被害でスポーツをする場所が無いが物品があふれ、スポーツ少年団の登録人口の3倍くらいの物資が贈られ感謝の気持ちが無くなっている。
・復興には10年以上かかるとされているので支援の在り方を・・・
例えばリサーチし地元の小売店で購入し支援して頂けると力になる。

1. 関東・甲信越ブロック　　宍戸副会長

・3月4日　東京（浅草橋）で役員会を開催。
・9月15日　ブロック大会を日帰りで東京上野精養軒で開催。今年は千葉県で開催予定。
・10月20日　全国大会をブロック（1都9県）が主管として埼玉県で開催。

1. 中部ブロック　　澤田会長

・11月9日　福井県組合創立50周年開催。
・1月11日　北陸3県合同新年賀詞交換会を開催。
・岐阜にて国体（冬季大会）が開催された。
1月28日からスケート(スピード)競技(恵那市)
2月14日からスキー競技（高山市）

1. 近畿ブロック　　宗田事務局長

・1月6日　関西新年賀詞交換会・理事会を開催。
・1月22日　日本トレーナー協会と今後の打合せ。(滋賀県)
・12月25日　全国高等学校駅伝競走大会が開催され、アシックス・ミズノ売店に協賛。(京都府)
・1月15日　全国都道府県対抗女子駅伝大会が開催されアシックス売店に協賛。(京都府)
・全中大会の利益還元事業としてJSERAのショッピングバッグを組合員全店に配布。(大阪府)
・「スポーツにおける安心の場を提供するための講習会」の日時・場所を検討中。(兵庫県)
・11月末に台風12号で被害にあった天川中学校にバレーボール・バスケットボールとサッカーボール40個を寄贈。(奈良県)

1. 中国ブロック　　大林会長

・12月13日　ブロック大会を山口県で開催し60名が参加。
・山口県で国体が開催され売店売り上げは伸びたが他業種に売上をとられている。スポーツ用品の取り扱いはスポーツメーカーだけではなくなってきている。

1. 四国ブロック　　美馬会長

・8月に香川県が法人化。
・大型スポーツ店“ゼビオ”と“アルペン”がオープンし10%～20%の売上ダウン。大型店対策が必要。
・小中学校の統合が続いていて学校絶対数が減少。
・高知県で「スポーツにおける安心の場を提供するための講習会」を開催。
チラシを配布し、知事に内容説明書を100冊贈呈。3月中旬から末にかけ学校に寄贈予定。
・復興支援Tシャツ・タオルセットを県内組合員数分を組合で一括購入。
・3年後に全中大会が開催される。
・8月27・28日　ブロック大会（愛媛）を開催予定。

1. 九州ブロック　　丸山会長

・11月8日　ブロック大会を沖縄県で開催。
・県持ち回りで時計回りに女子ソフトバレーボール大会を開催。
32チーム参加で4～5試合出来る様な組み合わせで行なっている。
・九州のメーカー・卸が合併や撤退し、小売も厳しい状態。

＜その他＞

蓮田専務理事より本日の研修会の案内。

JSERA　第19回全国理事長会議（研修会）

日時　平成24年2月1日(水)　14：40～16：50
場所　コスモスクエア国際交流センター
「211」A・B 「215」

復興支援東北3県のスポーツ振興事業への対策
頑張ろう東北！復興に向けて1500の絆

【分科会】　統括　重森理事長
理事長挨拶
1. 岩手県対策（岩手県：佐藤佳明・八森辰雄）
「211」－A
<進行・報告>　関水副理事長
<書記>　田中事務員
辻本昌孝顧問・村住俊幸(北海道)・福士大二(青森)
原田和美(群馬)・伊藤　章(新潟)・石田　博(新潟)
木村達郎(富山)・碓井善治(静岡)・堀　英男(静岡)
澤田基朗(岐阜)・安井幸夫(京都)・宗田千耕(京都)
尾坂眞人(鳥取)・渡邉健介(広島)・石田　治(愛媛)
美馬義一(高知)・吉井　健(長崎)・岩満一臣(宮崎)
1. 宮城県対策（宮城県：松村善行・五十嵐哲雄）
「211」－B
<進行・報告>　武宮副理事長
<書記>　小沼事務員
小関和夫顧問・矢野幸太郎理事・五嶋和夫(秋田)
宍戸幸市(栃木)・鈴木敏郎(千葉)・川崎　昇(千葉)
大工原章介(長野)・甲　秋水(石川)・竹原和彦(福井)
土赤光宏(愛知)・岸田昌雄(大阪)・伊藤禮嗣(島根)
平本寛之(島根)・笹倉泰治(徳島)・田原春　勇(熊本)
伊藤伸之(大分)・大嶺　佶(沖縄)
1. 福島県対策（福島県：桑原勇健）「215」
<進行・報告>　関口副理事長
<書記>　蓮田専務理事
鮎川尚之(中央会)・水島隆司理事・笹渕信嘉理事
清水誠一前理事・渡部政雄(山形)・笹谷　忠(茨城)
坂下英雄(茨城)・佐藤昌一郎(東京)・角前博道(三重)
讃岐和子(兵庫)・金井啓次(奈良)・有家輝明(和歌山)
山下日出夫(岡山)・大林哲夫(山口)・篠原正知(香川)
中島紘一(佐賀)・丸山　修(鹿児島)
取材：スポーツ新報
休憩　16：00～16：10
全員『211』に集合
1. 3県より報告
1. まとめ　重森理事長
1. 閉会(16:45)　関水副理事長

東日本大震災について（平成23年10月～の状況）

・金銭的支援の報告
㈱モリヤマスポーツより　60,000円

・復興支援商品について
平成24年3月30日現在
＜セット＞506セット　＜単品＞Tシャツ588枚・タオル363枚
支援金額　3,689,190円

3月で注文を締め切らせて頂きましたが、インターハイ・全中販売等は**5月末日**締切り、国体販売等は**7月末日**締切りとして対応させて頂く予定です。
それに合わせて、組合員様からの要望があれば追加注文にも対応させて頂く予定です。
※ タオルにつきましては単品生産が出来ない為、少ない枚数での受注が出来ない場合があります。またTシャツの素材が変更になる可能性もございます。

皆様のご理解・ご協力に大変感謝いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

オリンピックへの思い

株式会社　アシックス
取締役会長　和田清美

日本スポーツ用品協同組合（JSERA）の会員の皆様には、平素より多大なご支援、ご協力を賜り、誠に有難うございます。またこの度はJSERA会報誌へ寄稿の機会を頂き、重ねて御礼申し上げます。

昨年は、東日本大震災という惨禍により、スポーツ業界も試練の年となりました。しかし同時にスポーツが持つ力を改めて強く感じる年でもありました。東日本大震災の後、多くの選手、OB、スポーツ諸団体の方々が自発的に被災地に入り、競技に臨む姿を通じて被災者の方々に何かを伝えようとされ、また、義援金の募集やスポーツイベントの開催をされました。スポーツにはどんな状況においても、人々に元気を与えたり、困難を乗り越える手助けが出来たりする素晴らしさがります。

実は、このような活動を、今から89年も前に既に実践した方がいらっしゃる事をご存知でしょうか？日本スポーツ界の父、嘉納治五郎さんです。嘉納先生は、1923年に起こった関東大震災の時に、「スポーツが失意の人々の力になる」「災いを転じて福とせよ」と唱え、震災のわずか1ヶ月後に道場で稽古を再開しました。これは、嘉納先生の「精力善用」「自他共栄」の精神、つまり、“他者に尽くしてこそ自己完成がなされ、それにより社会や国を発展させられる”という理念から実践されたものです。

さて、今年は、いよいよロンドンオリンピック開催の年です。7月27日から8月12日まで、世界で大きな盛り上がりを見せることでしょう。スポーツ用品業界にとっては、オリンピックを目指す選手、出場選手たちへ優れた製品の提供によって貢献できる絶好の機会です。この事は、我々業界関係者からしますと、今では当たり前の事の様に思われがちですが、この礎を築かれた偉大な先達の一人もまた嘉納先生です。

先生は一昨年、生誕150周年を迎えられました。そして、昨年は、「日本体育協会」「日本オリンピック委員会」創立100周年という記念の年でもありました。両団体は、先生をはじめとする体育関係者のご尽力で、1911年に「大日本体育協会」として創立されました。体育協会の創設がその後の我が国の体育（スポーツ）振興体制の在り方を変え、以後のオリンピック招致へ向けての礎となったことは言うまでもありません。

この後1909年、先生は日本人、またアジア人として初めて国際オリンピック委員会（IOC）委員に就任されます。就任3年後の1912年、スウェーデンのストックホルム大会に日本代表選手が初めてオリンピックに参加。その後も全精力をスポーツの振興に傾けられました。

東京オリンピック招致の際の有名な演説があります。まだ飛行機も発達していなかった当時、ヨーロッパから日本に来るには、船、またはシベリア鉄道のルートで、20日近くかかりました。ヨーロッパの人々からすれば、日本に選手団を派遣するなど想像もできない、渡航日数と旅費がかかりすぎるという理由で反対するIOC委員が多かった時代でした。しかし、嘉納先生はそれを逆手に取って「そのような遠距離にもかかわらず、日本からは1912年以降、毎回多くの選手が参加している。従って、欧米の選手が日本に集まることなど、日本選手団の苦労からすれば大したことではない、むしろそうすることで、オリンピックが欧米のものから広く世界のものになる。」相手の論理を見事に自身の論理に引き寄せたのです。そして1964年の東京オリンピックの成功は皆さんご存知の通りです。

2020年の五輪招致につきましては、直近が2008年の北京、その後が2012年ロンドン、2016年リオ。オリンピックの開催地はアジア、欧州、南北アメリカと、大陸を順繰りに廻る法則のようなものがあります。そのような意味でも、東京は、アジア開催というアドバンテージになり得るでしょう。しかしながら「イスラム圏初・アジア・欧州の2大陸をまたぐ初の大会」を謳うイスタンブールも好敵手です。

今日まで、スポーツを通じた国際交流は、相互理解の促進、日本の国際的地位の向上、極めて重要な役割を果たしてきました。オリンピック、パラリンピック等、大規模な国際大会を招致・開催することは、スポーツへの関心を高め、スポーツ振興や地域活性化、国際的なスポーツ界で活躍できる人材の育成や、人的ネットワークの構築にも繋がってきます。

東京オリンピックから50年近くの時が経ち、

当時を知らない人が増えました。東京オリンピックが今日の日本に、また私たちの生活にもたらした夢と活力を思う時、諸先輩方の功績に改めて敬意を表すとともに、もう一度あの感動を若い人に知ってほしい、という強い想いがあります。前回の五輪招致に関しては、社会的気運の醸成が必ずしも十分ではなかったでしょう。「震災からの復活」「アジア開催」「環境にやさしいコンパクトシティ」「都市インフラの充実」「堅固な財政」等々、東京には様々な利点がありつつも、決め手に欠ける部分があります。前回、一番の問題にされた国民の支持率、これをスポーツ業界人として盛り上げていく事、これが私達の出来る最大のバックアップではないでしょうか。

こういう時こそ、日本の“若い力”が新境地を開拓するチャンスであると思います。ロンドンでの活躍が期待されるアスリート同様、子供たちに夢とスポーツの素晴らしさを伝え、次代を担う若人の誕生を期待しつつ、私たちも偉大な諸先輩方の築いてこられた歴史に感謝し、業界全体でオリンピック開催の気運を盛り上げるお手伝いをしていけたらと思っております。

第13回　定時総会・全国大会開催に向けて

北の大地　北海道でお待ちしております

北海道スポーツ用品小売商組合
理事長　村 住 俊 幸

○埼玉県　関口理事長お疲れ様でした

2011年　JSERA全国大会が関東甲信越ブロック、埼玉スポーツ用品小売商業協同組合主管によって成功裡に開催されました事、心よりお慶び申し上げます。そして埼玉県組合の皆様お疲れ様でした。大会の研修の部ではテーマ「儲かる商売のために」ではメーカー、卸、組合員がテーマに基づいて本音をぶつけ合い、いろいろな意見が出ていました。本当に頑張って生き残っているお店がたくさんある事にいつも勇気づけられます。また、この埼玉県大会もそうでしたが、一昨年の奈良県大会、そしてその前の鹿児島県大会においても担当ブロックの登録者の数の多さに圧倒されました。北海道・東北ブロックもこの勢いにあやかりたいと思います。（松村会長、よろしくお願いします。）

○急転直下で決まる？

一昨年前の奈良県　橿原大会の総会終了後、北海道・東北ブロックの大坪会長（当時）から再来年は当ブロックで主管する事になっているので、どこかで引き受けて欲しい、と話がありました。過去に宮城県（H3年）、岩手県（H12年）、山形県（H18年）で開催しているので、残りの北海道、青森県、秋田県、福島県で決める事になりました。青森、福島は組合員が少ない為、秋田県は何もないところ？（そんな事はないでしょう）という理由で北海道に決まりそうな空気に。理事長として初めて参加した全国大会でいきなりこんな重い話に式典中は何も耳に入らず、受けるか、受けないか、出来るか、出来ないかをず～っと考えていました。同行した副理事長2名と専務理事で懇親会終了後、部屋で打ち合わせをしました。結局、受けなくても6年後にまた開催要請があるのであれば少しでも若いうちに経験した方がいいだろうという事（あまり前向きではなかった）で三役の間ではまとまりましたが、大坪会長には北海道に持ち帰って理事会で決める事を伝えました。その後、11月に臨時理事会を開き正式に受託する事になりました。

○北海道の組合について

ここで北海道の組合について簡単にご紹介致します。当組合は昭和57年9月25日に昭和62年の「全国高校総体」、平成元年の「はまなす国体」に向けて設立致しました。共に無事終えることが出来、順調に船出致しました。また、平成6年と15年には「全国中学校体育大会」も行っております。平成8年9月に今の任意の組合に組織変更をして今年の9月で30年を迎えます。（全国大会の事で頭がいっぱいですっかり忘れていました。この事は組合員も知らないはず？）この節目の年に全国大会を主管する事になろうとは・・・・・。現在40社で活動をしています。

○全国大会まであと６ヶ月

JSERAの理事会で承認を受けていないので許される範囲で記述します。

今回は若い世代（後継者）と女性にスポットをあてこのスポーツ業界に一石を投じてもらい、今後の方向性や業界の在り方、生き残り策などを探っていきたいと思います。また今回はじめての

女性フォーラムを企画中です。（普段、奥さまへのサービスを怠っているご主人様、つれて歩きにくいとは存じますが点数を稼ぐチャンスです）当組合にもバリバリの？女性たちも活躍中です。是非ご参加下さい。さて懇親会です。ここはもう北海道の食で押すしかないでしょう。海の幸だけではありません。新鮮な野菜、フルーツ、そしてスィーツ。お楽しみに。

以下、大会スケジュールを記します。

期　日：平成24年10月17日（水）～18日（木）
会　場：札幌グランドホテル（札幌市）

主な日程（予定）

10月16日（火）　ジンギスカン夕食会
於　札幌ビール園
10月17日（水）　総会･式典･研修会･三層懇親会
10月18日（木）　観光ツアー
大倉山ジャンプ競技場と小樽散策
三層親睦ゴルフコンペ
於：小樽カントリー倶楽部

最後に自然一流、施設二流、サービス三流といわれる北海道ですが、当日は満面の笑みで皆様をお迎え致しますので是非ご参加ください。ちょっと寒いけどお待ちしております。

組織としての絆、地域との絆を深める日常の活動を

兵庫県運動用品商業協同組合
理事長　讃 岐 和 子

この度兵庫県理事長に選出され就任いたしました讃岐和子でございます。

まだまだ未熟でございますが組合員の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、縁の下のお手伝いによってその職責を果たすことができればと思い、お引き受けいたした次第でございます。何卒よろしくご指導･ご鞭撻の程お願いいたします。

私たちは周囲の多くの人々の影響を受けながら日々営んでいることを実感させられることがしばしばあります。独りでいくら考え悩んでいても解決できなかったことが、他の人の考えや生きざまに触れることで「ああそうかそういうものの考え方もあったのか」とか「そのような行動の手もあったな」と課題の解決やステップの糸口をつかむことがあります。組合員相互の交流と連携が最強のコミュニケーションツールとなり組合員お一人おひとりの人柄や経営に対する考え方に触れながら、組織として地域に密着したスポーツ専門店の役割を果たしたいと思います。

ところで、昨年11月には法政大学大学院の坂本教授の研究室による《独自の分析による47都道府県の「幸福度」》が話題になりました。その分析結果は、福井・富山・石川の北陸3県が上位を独占しています。坂本教授は「乳児や女性、高齢者、障害者、働く人のいずれにも優しい自治体が上位に並んだ」と話されております。そこで我が兵庫県はと見れば、47都道府県のうちなんと45位となっているではありませんか。これは意外と思われたのは私だけではないと思います。この分析は離職率や失業率の高さが資料にも含まれているようで、大都市圏ではより厳しい結果となったと思われます。

では、私たちスポーツ用品業界に携わる組織にとって「幸せの尺度」は何であるとお考えでしょうか。「心身の健康であること」には誰しも異論はありません。その上に「組織としての絆、地域との絆を深める日常の活動」を加えたいと私は念じています。

私は常々、兵庫県のスポーツ専門店の一員として、近畿ブロックで野球少年の夢舞台を高校野球のメッカ「甲子園球場」で開きたいと抱いております。地域の子どもたちが輝いて生きている美しい姿の実現を求め、微力ながらオピニオンリーダーとして進むことができれば素晴らしいと願っています。

追伸

今年の北海道での全国大会（10月17日）にはスポーツ店にかかわる女性の方（小売店・問屋・メーカー等々）の参加を是非にとのお話がありました。素敵な企画とおいしいお料理でお迎えしていただけるそうです。いざ皆で北の大地へ出発しましょう!!

卓球講習会への姿勢

福井県スポーツ用品協同組合
理事長　竹原和彦

例えば「1対1」で綱引きをした時、両方の人間共が必死になってしまうから、多分、100％の力を出し切る事になるだろう…。

しかし、それが「2対2」とか「3対3」となると、90％から80％の力になってしまい、だんだん人数が増えて、「会社対会社」とか「組織対会社」等になると、何故か50％以下の力になってしまうというような話がある。

それは、自分はそのメンバーの中の多勢の中の一人になってしまうからで、「一人の力」は知らず知らずに弱まってしまい、もたれ合い、「自分一人だけでやってもどうせ…」という事になってしまうからかも知れない。「どうしたら良いのか」と考えたり、いろんな状況が分かっていても“多数の社員の中の一人”という意識があると、自分の考え方やその人らしさはなかなか発揮出来なくなってしまうものなのだろうか…。しかし、そうは言っても全てその人の気持次第というもので「1対1」の心がまえでどう行動する事が自分にとって最善なのかを考える事こそ大切である。

春を迎えて忙しくなってきて、時間によっては家内と2人だけになったり、自分一人だけになってしまう事もあるが、そんな時は不思議とはりきってしまうものである。まさに「1対1」の状況になっているから、お客に声をかけてみたり、言葉数も多くなったりして、いつもより動きも良くなって、陳列を変えたり整理したりする。こうした「1対1」の責任という自覚がまだ自分のどこかにあって、気持ちや行動がいつもとは変わってしまうのかも知れない。

さて、先日店で卓球の講習会を開催した。以前は私共の店から依頼して、卓球メーカーや卓球用品の卸が、卓球の講習会を企画したり提案もあったりしたが、それが最近では卓球メーカーは直接お客や学校と話し合って自分らで開催したり、協会に対応したりして、小売店の存在はメーカーからすっかり忘れられてしまっているのだろうか…。又、その講習会の時に思う存分自社の商品の良さを紹介するというのは当然としても、その場で直接商品を販売したりしているのではないか、と誤解を受けるようなケースが多くなってきている。

そんなこんなで、今、卓球メーカーは忙しい毎日に追われているから、講習会の開催を希望しても、だんだん難しくなって頼みづらくなってしまっている。

そんな状況の中で、今回の講習会は卓球のメーカーではないが、卓球用品も扱っているところの営業担当がその人の気持で「今回は、ぜひ私共の会社で卓球の講習会をやらせて下さい！卓球メーカーに負けないよう頑張って、喜んでもらえるようにします…」という熱い思いをもってぶつけてきたから、実現出来たのである。この事は、考えてみると、卓球のメーカーやそれを扱っている卸としては考えさせられる姿…。考えなければならない状況でないかと思っている。

さて、今回の“ビクトリークリニック”の講師の井上さんは、昨年の2月にも講師として来てもらったが、その時も関西弁で時間をオーバーしても、アドバイスしている姿が印象深かったが、今回はいろんな面で更にレベルアップした指導ぶりが好評であった。

この人の一人一人に対する言葉数の多い助言は、講習会で最も望まれている基本の姿だと思っている。小学生も、中高生も、そして一般の人達も混ざった中での指導だったから、やり方としてはきっと難しい面もあったと思うが、「私の責任で、うまくやってみせる！」という主体性が強く感じさせられるものだった。

現在のように厳しい商売の中にあるというのに、我々の日常では緊迫する危機感とは裏腹に、依然として「大勢の中の一人」というもたれ合いや、手ぬきもあって、責任も分散してしまい、個人としての責任感が感じられるような事はないだろうか…。

我々の店が、専門店として、生き残って行くためには、こんな「1対1」の気持をもった姿勢と、責任をもった対応が常に求められているという事を、これからも忘れないでおきたいものである。

みんなが満足するために

愛知県スポーツ用品商業協同組合
副理事長　井上　真

2010年5月土赤さんが新理事長になり、何の事前相談もないまま、総会において指名を受け、あれよあれよと言う間に大役を引き受けることになりました。

以前は組合には時間があれば参加するようにはしていましたが、もっぱらやじ馬的参加で文句ばかりいう奴でした。それが理事長を立てて、補佐し、組合員さんに理解をしてもらえる様に進行するなど考えたこともない事だったのです。

小売店の商売も大変厳しくなり、組合活動に参加する余裕などないと聞きますが、土赤理事長はそんな時こそ組合員同士の団結が大事だと考え、小さい小売店だからこそ、出来ることもあるはずだと、積極的に多様な事業に挑戦しました。まずは、就任したその年、秋にはそれまで三層研修会で、一泊旅行とゴルフを恒例にしていたものをやめ、宿泊はせず、午前中近場でゴルフをした後、名古屋の中心部で夕方から懇親会を開き、メーカー・問屋さんの参加料も組合員さんと同じにして50名の参加があり、大盛況の内に行われました。

年が明けると、3月あの東日本大震災が起きました。ボランティアには人一倍熱心な土赤理事長は現地にも何度も通い、何か組合で出来ることはないかと思案され、そこで仙台で牛タンを買い付け、ステッカーと一緒にして組合員さんに買ってもらい、義援金にすることを考えました。この企画はJSERAの総会でも紹介され、大変な反響を頂きました。2年目に入って念願だった「一般の人との関わり」と言うことで、9月にウォーキング大会を企画しました。これにはメーカーさん・問屋さんも賛同いただき、100名ほどの参加者があり、まだ残暑の残る名古屋の町を歩きました。

11月には三層研修会を行ない、宮城県から貴重な体験をされた大坪征一氏・松山健一氏からお話頂き、改めて震災の悲惨さを再確認しました。

このように2年間理事長に引っ張られて進んできました。色々なことを体験してみると、また組合の本来の目的は何かと考えさせられます。自分なりに考えた組合の仕事を上げれば、メーカー・問屋に対する話し合いを持つ事とか、安売りなどをする同業者に対する指導するとか、協同仕入れをして各店に利益を生むようにするとか、ガット張り・ラバー張りなど技術的講習会を開催するとか、組合の名で国体など大会のグッズ売りをする事とか、組合員同士の情報交換の場所をセットするとか、考えられます。

まずは組合員同士がコミュニケーションを図ることが一番大事かと、同業者同士が酒を飲み交わすことなどありそうでないこと、個人経営のところも多いので、仕事の仕方も一人よがりに成りがち、経営コンサルタントに相談したところで、なかなか具体的な話にはならない、そんな時、生の声が聞けるのは、大変参考になると思います。

適正な利益を取り、信用を大事にしてお客さんに喜んでもらう仕事をしなければ、明るい未来はありません。組合員同士が良好な人間関係で、得意先で会っても、笑顔で話せる環境にしたい。その為にはお互いを知ること、コミュニケーションしかありません。

今年は折りにふれ、話し合いの機会を作り、少しでも理解しあえる関係を作って、自分の所にはない商売のやり方や考え方を参考に、役立ててもらえれば良いと思っています。

組合員同士の親睦を図ることが、組合の基本と考え、組合員さん全員に100％満足してもらうのは難しいでしょうが、納得してもらってこそ次の段階に進めるものだと思います。我々が目指す組合活動を行うためにも、団結力を大事にして行きたい。

国歌君が代と国旗日の丸について（3）

広報委員長　角前博道

（前号から続く）

又この「君が代」については、おもしろい話しも伝わっております。それは、明治初年頃国歌を制定しようとした時は、薩摩の兵隊が、自分達のくにの方で歌っている歌にいいのがあるといってその曲にしたと云う話しがあります。それは江戸の初期から歌われていた隆達節というもので「隆達小歌集」の最初に君が代の歌詞と同じのがでているそうです。これは明らかに恋歌だそうで、この「君」は、天皇ではなく、二人称のあなたの長寿を歌ったものであり、恋歌を国家にしただなんて話しが本当ならば、しゃれているじゃあないでしょうか。先日ワールドカップブラジル大会アジア予選で北朝鮮での試合前にそれぞれの国家の演奏の時、日本国歌「君が代」が演奏されるや、北朝鮮のスタジアム中ブーイングで、「君が代」が聞きとれない様だったと、テレビが報じていました。気の毒な国だと思いませんか、子供じみていると云うか、なんと云うか戦前の我が国を見る様な気がします（英語を敵国語として使用させなかった等々）。

さて次に君が代の曲について考えたいと思います。国家は、国旗と同じく、近代国家の成立により、国内的な結果を強め対外的に独立を保つためのよりどころとして、作られるようになったものが多いのですが、日本の場合、その成立に関しては、紆余曲折があり、また不明な点が多い様です。まず今日一般的にいわれているのは、イギリスの軍楽長フェントンが、「儀礼用の国歌があるか」と聞いたのに対し、のちの元師大山巌が古歌「君が代」を選び、これに曲を付ける様に提示したようです。ただ律動的にも、音節的にも我々日本人に到底歌節として思惟し難いもののようであったそうですが、他に国歌の様なものがないので明治三年に天皇の前で披露され、天長節などに用いられたそうです。

この様にフェントンの作った曲は、「君が代」に付けられたはずであるが、歌詞と旋律がうまく合わない代物でありました。そこで、当時の海軍の軍楽長が作り直す様に海軍省に上申し、明治十三年に、宮内省と交渉の上、同省雅楽節に於いて改正案譜数曲を作り、その中から、海軍雇教師エッケルトの助言をもらい、現今使用の楽譜を選んだそうです。

さてこの「君が代」の本当の作曲者はだれかと云うことですが、当時の宮内省雅楽課の若い楽部員で林広李氏と奥好義氏の合作と云うことだそうです。ただ、当時の慣例では雅楽課を代表しての名義として林広李氏の父親の林広光選譜となっています。そしてその楽譜が洋楽器と調和するかをエッケルトに調査してもらうこととし、それをうけて彼は吹奏楽用に編曲した総譜を作ったそうです。そしてそれが出来ると雅楽課から海軍へ出向き奏楽を聴いて、定義したとなっています。こうして出来上った「君が代」の新譜は、明治十三年天長節の宴会において天皇の前で奏楽され、国歌として誕生しました、となっています。

さて、この様に誕生した国家「君が代」ですが、

法律や勅令などにより「国歌」とした明文は、明治時代でも大正・昭和に入っても作られておりません。それは、明治の時代に「大日本礼式」や又「祝日大祭日唱歌」が告示されたことによって、「君が代」以外に日本国国歌はありえないとの認識が内外に広まり、わざわざ明文化する必要さえないほど国民の当然の常識となり国歌として育って来たからと思われます。ここで世論の動向をみると調査では、「君が代」に敬意や愛着をもつ者が約70％（反感をもつ者1％）又国歌としてふさわしいと考える人が77％（不適切と思う者９％）といった結果が見られます。（新聞社が何度も行った各種の世論調査の結果）しかしこの様に国歌として「君が代」を支持する人達が多いにもかかわらず、学校の行事となるとなぜか教師の中に儀式歌として斉唱する慣習は、国旗「日の丸」の掲揚とともに反対する人が多い。そこで、平成元年告示された「学習指導要領では、国旗とともに国歌についても憲法下における天皇の地位についての指導と関連を図りながら国歌「君が代」は、我が国が繁栄するようにとの願いをこめた歌であると児童生徒に理解させる様に至ったと思われます。つまり国歌「君が代」の歌意を指導するには、その前提として、歴史的にみても天皇が国民敬愛の的であったし、又現実的にみても、日本国統合の象徴であるとの共通認識を持つ様に指導させねばと思います。有史以来天皇と国民の関係は、必ずしも単純一様ではなかったけれど、敗戦直後の天皇の人間宣言の中で、陛下と国民との関係は、終始相互の信頼と敬愛とに依りて結ばれ、単なる神話と伝説とに依って生じて来たものではないと明言されています。君民一体の歴史を積み上げて来た上でもって現憲法下のもと「君が代」の君が、日本国象徴の天皇をさしていると考えても、私はまちがいではないと考えます。前号で書いた様に、むしろまことに国歌としてふさわしいものではないでしょうか。ただほかにもさまざまな考え方がありうるし、儀式などで斉唱するにあたっては、充分に冷静な論議を尽す必要があると考えます。そしてこれから国際社会に雄飛していく児童生徒達に、学校教育を通じて的確なる指導が行われることが大事だと考えます。

所功者　国旗・国歌の常識を参考させて頂きました。

編集後記

３月下旬から４月中旬までは、我々全国の小売店の多くは、学納で大忙しだと思われます。ここ数十年の間に、大型店に多くのカテゴリーを占領され（ゴルフ・スキー・ジョギング・硬式テニス等々）最後に残された飯の種と考えられます。死守するのは当然ですが、これがまた少子化の影響で特に地方においては頑張れば頑張る程仲間の商売を駆逐してゆくことになり、いやな気持（お互いが）になってしまいます。又ネットの商売も自分だけが良ければと思っていると、天に唾をはく様なことになり、最後には自分にも降りかかって来るのではないかと思います。弱肉強食と云いますが、本当の所どうなのでしょうか。組合活動を通じて仲間との絆を大切にと思えば思うほどジレンマに落ちていってしまいます。すこし前になりますが、ある講習会に出席しました。その時の講師の先生が教えてくれた言葉を思い出します。それは

一．不況時の経営姿勢として
　「石橋を叩きながら前向きに」
一．市場は縮小してもなくならない。
一．雇用の維持は経営者の責務
一．社員と現状認識の共有
一．勘定合って銭も足りる
　「黒字倒産の回避」
一．経営指針と「不易流行」
　「時代が変わっても根本は一つ」

いつも頭に入れながら進んで行こうと思っています。　(H.K)